



祐介の目

No.162

大田祐介（福山市議会議員）

いらだちを感じることも多く、落ち込んでしまふ。さらに公共交通機関利用時など、音声情報が重要な面で自分だけ乗り遅れ、そんな不安を感じる。

まず治療だが、突発性難聴の早期の治療

突発性難聴

数年前より突発性難聴になり、併せて頭の中でジェット機が飛ぶような耳鳴りもする。以来、会話の聞き取りに随分苦労するようになった。静かな場所でも一対一の会話には問題無いが、居酒屋のようなざわわした場所で複数人が話し出すと聞き取れないことが多い。補聴器を装着しても、何か食べると自分の咀嚼音で周囲の音が聞こえなくなる。とにかく不便極まりない。周囲にも迷惑をかけていると思うが、耳の不自由な方の気持ちがよくわかるし、難聴者でも社会生活が送れるような支援策を考える事が自分の仕事と考えるようになった。

難聴者の悩みは様々だが、主なものとして周囲からの音声情報が聞き取りにくいこと、コミュニケーションが取りにくいこと、情報収集の困難さ、そして、外見からは理解されにくいことなどが挙げられる。それらにより対話者から

は高気圧酸素治療タンクが有効とされている。次に補聴器は、福山市は65歳以上の高齢者の購入費用を上限2万5千円助成している。補聴器もピンキリあるが、早期の装着が社会的孤立を防ぎ、認知症予防にも効果がある。市議会の傍聴においても、傍聴席にヒアリンググループシステムを設置しており、目的の音声だけをクリアに届けることができるようになった。

家でテレビを観る際はついボリュームを上げてしまい家族に迷惑をかけるので、骨伝導收音器を使っている。これはなかなかの優れものだ。夫婦二人の会話なら「もしもしフォン」という蛇腹のパイプが安くて便利だ。最後に神頼みも捨てたものではない。尾道市因島の大山神社にある「耳明神社」には耳の神様が祀られており、堀病院の駐車場に分祀されているので私も時々参拝している。皆様からの「耳より情報」にも期待したい。